

ごみ処理のうつりかわり ～混ぜればごみ、分ければ資源～



身近なことから「ごみダイエット！」

高度経済成長に伴い、家庭からのごみが増加する中、北九州市では“出されたごみを迅速、安全かつ経済的に処理する”処理重視型の理念のもと、さまざまな事業を展開し、市民から高い評価を受けていました。

しかし、処理重視型では、“市民はごみを出し、それを市が処理する”という構図が確立し、ごみを減らすことはできず、ごみ処理経費が増大していきました。

この市の財政を圧迫する処理経費を抑制するためには



©ていたん&ブラックていたん 北九州市

ごみを減らすことが最優先であることから、処理コスト負担のあり方を見直す必要があると考えました。また、外部委員会で構成する「北九州市行財政改革推進会議」から「市民のコスト意識を高める有料化を実施すべき」との提言を受け、平成10(1998)年、政令指定都市では初めて有料指定袋制度を導入し、家庭ごみ収集の有料化を行いました。

制度導入にあたっては、市民説明会、PR、指定袋の試行配布、早朝指導などきめ細かい対応を行ったことにより、市民の協力率は99%を超える高いものとなりました。制度の導入後、3か月間で家庭ごみは15%減少、資源ごみは24%増加となり、目標を達成しました。



制度開始をお知らせする広報誌

市民みんなでごみ減量20%！

こうして有料指定袋制度への移行によってさまざまな効果もたらされましたが、ごみの削減量は横ばいが続いています。そこで、さらなるごみ減量化に向けた施策を検討し、平成18(2006)年に、「家庭ごみ収集制度の見直し」と「資源化物の有料指定袋導入」を行いました。

制度の見直しについては、ごみの減量に必要な対策だと理解を示す声がある一方で、見直しによる負担増に対する反対意見も多く寄せられました。指定袋の価格改定、新しい分別の導入、かん・びん・ペットボトルの有料指定袋導入など変更点が多かったからです。市民の賛同を得るためには分かりやすく丁寧な説明が必要だったため、参加者が一人でも土日祝日に



地域会合での説明

関わらず、希望された時間・場所において、累計1,300回を超える市民説明会を実施しました。

新制度への移行にあたっては、家庭ごみの有料指定袋制度導入時の経験とノウハウを活かし、1万人を超える市民との協働による「早朝ごみ出しマナーアップ運動」や、お試し袋の全世帯配布などを実施しました。

この制度見直しにより、翌年には2003年度比で家庭ごみは25%減少、資源化物を含めた総量でも10%の減量を達成できました。このような二度にわたる家庭ごみ収集制度の大きな見直しにおいて、市民との対話と協働を大切に取り組み、ごみの減量化・資源化を達成することができました。今後も引き続き、市民の協力を得て、循環型社会の形成に向けて取り組んでいきます。



市民との協働による早朝指導



指定袋のお試しセット

